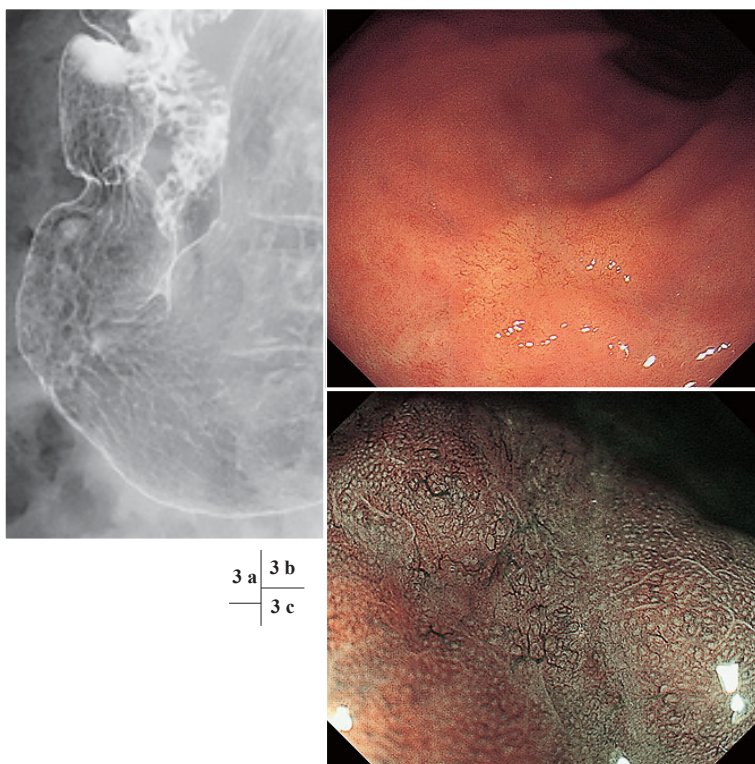








ly1, v0, n0) で、切除された所属リンパ節、および前庭部の IIc 近傍の黄色調の病変は体部の病変と同様、類上皮細胞の集簇した肉芽腫であり、本例はサルコイド反応を伴った早期胃癌である、と解説した。九嶋(国立がん研究センター中央病院病理科)は、granulomatous gastritis または sarcoidosis に合併した早期胃癌である、と追加した。渡辺から granulomatous gastritis は病態の記載であり疾患名ではないことが強調され、岩下(福岡大学筑紫病院病理部)は、本例はサルコイド反応を伴った

早期胃癌ではなく、sarcoidosis を合併した早期癌と診断すべきである、とコメントした。本例は X 線造影検査で体部病変は良性であり、前庭部病変が癌であること、拡大を含む内視鏡検査で、体部病変は単なる潰瘍瘢痕ではなく、上皮下に何か(本例では結果的にサルコイド結節であった)が沈着または浸潤している、との診断が可能である画像が見事に提示されており、貴重で大変勉強になる症例であった。

(市立旭川病院消化器病センター 斉藤裕輔)